

## 1 今年度の取組みの経緯

	実施日	概要
泉高校との協議	H30.7.2	泉高校に対してモデル事業の提案
	H30.9.13	モデル事業について、泉高校の実施意向を確認
	H30.9.28	平成31年度事業実施に向けた各事業の詳細協議
	H30.11.8	生活自立・仕事相談センター若葉の出張相談の実施方法を確認
	H31.2.19	進路指導部からのヒアリング(進路指導部の業務等について)
	H31.2.27	教育相談担当からのヒアリング(生活自立・仕事相談センター若葉の出張相談実施状況について)
神奈川県立田奈高等学校への視察	H30.7.2	横浜市などの外部機関との連携により、生徒に対して学習支援・生活支援・キャリア支援を実施している先進的な取組みを視察
業界団体意見交換	H30.12.14	千葉県トラック協会、千葉市建設業協会、千葉設備協会、千葉電設協会の業界団体と泉高校、本市で泉高校の就労支援と業界団体の人手不足等について情報共有
千葉県教育庁との意見交換	H30.12.21	本市と泉高校の連携について進捗状況等を説明するとともに、千葉県教育庁の「魅力ある県立学校づくり」や泉高校に対する支援の考え方について意見交換
	H31.3.4	県立高校に対する支援のあり方について意見交換を行うとともに、今後も継続的に協議を行うことについて認識を共有
モデル事業の実施	H30.11～	生活自立・仕事相談センター若葉の出張相談を開始(相談件数3件、うち1件継続支援 2月末現在)
	H31.3.12	企業見学バスツアー実施(ポリテクカレッジ千葉、住友重機械工業((株))千葉製造所)

## 2 高校生への支援について

総合教育会議における指摘 …… 「県立高校に対しては市の支援が届かない(届きづらい)」

### 基本的な考え方

自立した「社会人・職業人」になるため支援を必要とする「つまづき」を抱えるような子どもに対して、子どもたちにアプローチがしやすい学校を主な接点として、早期からの継続的な支援が必要

#### 県立高校との関係

県教委が所管のため連携・協力が十分とはいえない

#### 泉高校との関係

生徒の約9割が千葉市民であり、千葉市と密接な関係を有している

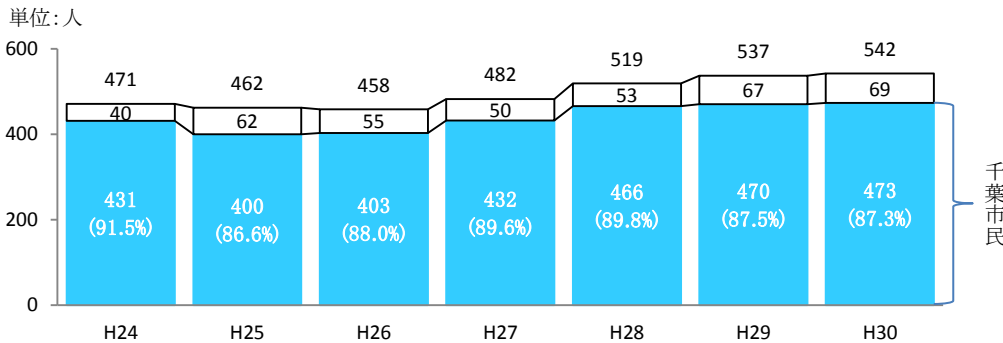
#### 他市の取組み

横浜市では、泉高校と類似した機能を有する県立高校と連携している

泉高校と連携し、先行事例を参考にしながら、高校生への支援モデル事業を推進(キャリア形成支援・生活支援・学習支援)

【参考】泉高校住所別生徒数(5月1日現在)

泉高校「学校要覧」より



【参考】神奈川県立田奈高等学校の取組み

専門職の配置と外部機関との連携により生徒を支援

専門職の配置	外部機関との連携
スクールソーシャルワーカー スクールカウンセラー キャリアカウンセラー	横浜市、NPO法人、ボランティア、 税務署管内の経営者団体

#### 横浜市との連携

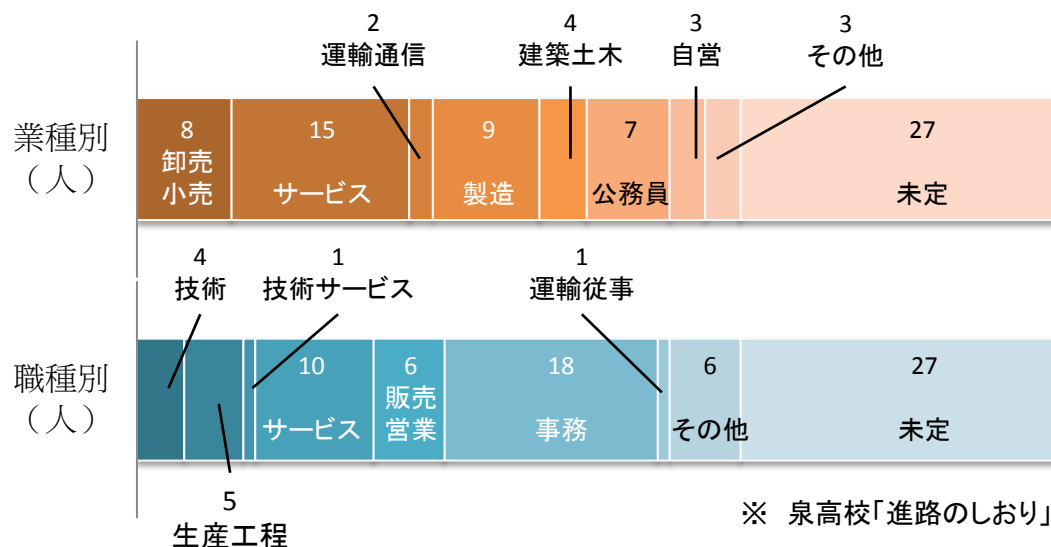
- ・ 保育プログラム(保育士資格取得支援…アルバイト斡旋など)
- ・ 介護プログラム(介護職員初任者研修受講支援、アルバイト斡旋)
- ・ 自立・就労に向けた出張相談(自立相談支援事業)

### 3 キャリア形成支援

#### (1) 就職希望先と人手不足に対する企業の動向

- ◆ 正社員が不足している業種に対して、泉高校生徒の志望は多くない
- ◆ 志望する業種・職種は「未定」がもっとも多いが、比較・参考になるデータが現時点ではないため多寡は判別はできない

就職希望者(78人)の志望状況(H30.4月時点)



従業員が不足している上位5業種(H30.7月時点)

順位	正社員	非正社員
1	情報サービス	飲食店
2	運輸・倉庫	メンテナンス・警備・検査
3	建設	人材派遣・紹介
4	メンテナンス・警備・検査	娯楽サービス
5	家電・情報機器小売	飲食料品小売

※ 人手不足に対する企業の動向調査(2018年7月) (株)帝国データバンク

#### 仮説

自立した「社会人・職業人」になるため支援を必要とする「つまづき」を抱えるような子ども

- ✓ 自分が希望していた仕事には求人がなく、興味を持たない仕事に就いてるのではないか？
- ✓ 自分の適性や興味がわからないまま仕事に就いているのではないか？



卒業後の早い段階で離職する要因になっているのではないか？

調査結果の概要

➡ 6か月以内の離職率が高いことや離職理由からも職業理解の不足等によるミスマッチや職業意識が未成熟であることがうかがえる

- 高校卒業就職者の調査対象の1年間の離職率を見ると、13.1%となっている
- 通勤採用者及び住込採用者別にみると、住込採用者の離職率が高い
- 事業所規模別にみると、1～29人規模の事業所の離職率が高い
- 産業別にみると「サービス業」が最も高く、次いで「建設業」、「卸・小売業」の順となっている
- 離職理由別にみると「仕事が合わない」が最も多く、次いで「職場環境が合わない」、「家庭の事情」及び「他からの働き掛けによる転職」の順となっている
- また、離職時期を問わず、「仕事が合わない」が離職理由として最も多い

通勤・住込別	通勤	住込	時期別	4月	5～6月	7～9月	10～12月	1～3月
離職率	12.7%	13.8%	離職率	10.5%	21.8%	23.4%	18.6%	25.8%

事業所規模別	1～29人	30～99人	100～499人	500人以上	計
離職率	29.8%	19.8%	15.8%	9.9%	13.1%

産業別	製造業	卸・小売業	サービス業	建設業	その他	計
離職率	9.8%	13.2%	16.5%	15.2%	10.9%	13.1%

離職理由別	仕事が合わない	傷病等健康上の理由	家庭の事情	就労意欲が乏しい
離職率	30.7%	2.3%	8.2%	4.1%

離職理由	進学等のため	人間関係がうまくいかない	ホームシック	希望条件と労働条件
離職率	4.1%	7.5%	5.6%	6.3%

離職理由	職場環境が合わない	他からの働き掛けによる転職	その他	
離職率	10.3%	8.2%	12.7%	

調査対象 … 平成28年3月に卒業し、平成29年3月までの1年間に就職した者(なお、就職経路及び就職時期は問わない)

調査方法 … 新規学卒対象求人の申込み時に事業主が提出する「平成28年3月中学・高校卒業者の就業状況報告」による

## (2)モデル事業の検討状況

検討項目	概要	進捗
インターンシップ受入先拡大	幅広い業種に対応できるよう若手人材が不足している業界団体(建設業協会、電設協会、設備協会、トラック協会)と連携し、受入先企業の拡大を検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 事務系職種を希望する生徒が多く、人手不足が深刻な技術系職種の希望は少ないことから、現時点では効果が期待できない</li> <li>◆ 効果的な取組みについて業界団体も含めた意見交換を実施したものの、進路指導担当教員から現在のスケジュールと業務負担では新たな取組みをする余裕はないとの申し出があった</li> </ul>
市内企業見学バスツアー	様々な業種に関心を持ってもらえるように地元企業を見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 今年度は3月12日(火)にポリテクカレッジ千葉、住友重機械工業(株)千葉製造所を見学(参加生徒 17名)</li> <li>◆ 平成31年度は、今年度の結果を踏まえて実施する予定</li> </ul>
ポリテクカレッジとの連携	技術系職種に興味を持ってもらうため、ものづくり体験等に参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 今年度は市内企業見学バスツアーの見学先として実施</li> <li>◆ 平成31年度は、今年度の結果を踏まえて実施する予定</li> </ul>
資格取得支援の研究	横浜市の取組みを参考に保育プログラム、介護プログラムの実現可能性について検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 保育プログラムは、2年間のアルバイトと国家試験合格をクリアするのは困難(横浜市も中断中)と判断し、検討を中断した</li> <li>◆ 介護プログラムは、進路指導担当教員から現在のスケジュールと業務負担では新たな取組みをする余裕はないとの申し出があり平成31年度の実施に向けた準備を中断した</li> </ul>

### (3) 進路指導部の状況

生徒に支援を届けるためには、進路指導の実態(スケジュールや教員の負担など)を勘案した支援のあり方を検討する必要がある

#### 進路指導担当教員の現状認識

- 将来、自立した生活ができるかどうかは、仕事への適性よりも基礎学力の定着、基本的な生活習慣の確立、家庭内の問題の方が大きく影響しているのではないかと？
- 半分が就職希望者、半分が進学希望者の泉高校で、両者のバランスを取りながら進路の行事を実施する必要がある
- 多忙な状況で負担が増加する取組みは避けたく、千葉市にどのような支援を求めるべきか明確になっていない

#### 進路指導の体制

- 人員は、就職担当が2名、進学担当が1名
- 授業は、週15時限に軽減(通常週18~20時限)
- 進路指導部長は、午前中のみ授業を行い、午後は進路指導の業務
- 生徒の状況に応じて、児童相談所や警察とも連携

#### 進路指導の主なスケジュール

4~6月

主な行事

- 説明会(四大・短大・専門学校進学、就職)
- キャリアガイダンス
- 就職希望者面接指導会
- インターンシップ(事前・事後指導含む) 等

主な業務

- 企業訪問や大学等の説明会で勤務日の多くは出張
- 集めた情報を校内の説明会等で共有

7~9月

- 履歴書指導
- 夏季就職活動会(職場見学指導、受験準備指導)
- 面接指導会(進学・就職)
- 説明会(就職、センター入試、推薦入試希望者) 等

- 7/1求人票受付開始
- 企業と生徒のマッチング・調整
- 生徒ごとに職場見学会を設定するための企業との調整
- 9月中旬~就職選考開始  
生徒ごとに選考会場・日時・アクセス方法を確認して指示

10~12月

- 進学希望者面接指導会
- 就職未定者指導会
- 1・2年生向けインターンシップ(事前・事後指導含む)
- 2年生向けキャリアガイダンス 等

内定が出るまで繰り返し対応

件数は減少していくものの、経済的な事情で急遽進路を進学から就職に変更する生徒への対応や、家庭の問題で児童相談所に一時保護されている生徒の対応など、困難な事例への対応に移行していく

1~3月

- センター試験事前・事後指導
- 一般入試受験指導
- 就職内定者指導会
- 就職未定者指導会
- 1・2年生向けキャリアガイダンス 等

## 4 生活支援

生活自立・仕事相談センター若葉(以下、「センター若葉」)の出張相談を平成30年11月からスタート

### 平成31年2月末現在での実施状況

- 相談員の人員(4人)も限られることから、相談件数を限定してスタート
- 対象となる生徒について、教育相談担当教員が窓口となり相談員と連絡・調整する
- 保護者へのアプローチと支援、関係機関へのつなぎ、相談の継続など、相談内容に応じて対応
- 3件の相談があり、うち1件は継続して支援
- 継続して支援しているケースは、生徒が家庭の問題等で登校できなくなっている状況だったが、相談員が保護者の支援をするようになったことで、登校を再開している。

### 現時点での評価

#### 泉高校

- 専門家に相談でき安心感がある上に迅速な対応で非常に感謝しているし、今後も出張相談を是非継続してほしい
  - 教育相談担当まで支援を必要とする生徒の情報が届いていないと感じる
    - 問題を抱える家庭環境でも生徒にとってはそれが普通で問題と感じていない
    - 教員も生徒の家庭内に踏み込むほどのコミュニケーションは取りにくい
- 学校に来なくなるなど、問題が顕在化(≒深刻化)した段階で支援が始まる**

#### センター若葉

- 学校からの情報提供、教員と生徒の関係構築、センター若葉への明確な要望が適切に行われており、円滑な連携体制ができている
- 支援を継続しているケースは、保護者との関係構築が比較的しやすいケースだった
- 支援件数を積み重ねていく必要があり成果や課題を洗い出せる段階ではない

### 【参考】神奈川県立田奈高校の取組み … ぴっかりカフェ

NPO法人との連携で、毎週木曜日の昼休と放課後に図書館をカフェとしてオープン。無料で菓子や飲み物を提供し、生徒の居場所として1日延べ約200人が利用している。地域のボランティアなどで運営され、ボランティアは生徒の僅かな変化を観察し担任等へ情報提供している。

※ 菓子を食べる量が多い → 家庭で十分な食事をしていないのでは? ⇒ **生徒が抱える問題を早期発見できるのでは?**



## 5 学習支援

### 学習支援ボランティアのマッチング(大学生ボランティア等を泉高校に紹介し、学び直しの授業で生徒を支援)

ボランティア派遣元は交通費支給を条件としていたが、泉高校では予算が確保できない、千葉県教育庁でも支援できないことから、支援のあり方について引き続き検討する。

## 6 千葉県教育庁との意見交換

泉高校と本市との連携モデル事業の推進に対して、現時点で千葉県教育庁は予算措置等の支援は難しい

### 県立学校改革推進プラン(H24～H33)の取組み

- ・「魅力ある県立学校づくり」と「県立学校の適正規模・適正配置」を推進
- ・同プランの具体計画として、第1次実施プログラムから第4次実施プログラムまで策定
- ・泉高校は第1次実施プログラム(H24)で地域連携アクティブスクールに指定
- ・現在は第4次実施プログラム(H30)を優先して取り組んでいるところであり、泉高校に対して予算の増額は難しい
- ・「魅力ある県立学校づくりの推進」として、普通科に専門コースを設置
- ・同プラン終了後の平成34年度以降を見据え本市の意見も聞きながら泉高校をどのようにしていくのか検討することも考えられる

### 普通科に専門コースを設置している例

コース	概要	対象高校
教員基礎	教員や保育士等としての基礎的な素養を身に付ける	千葉女子、安房、君津、我孫子
保育基礎		市川南、四街道北
福祉	介護職員初任者研修の修了を目指す	犢橋、佐倉西、松尾、小見川、船橋豊富、我孫子東、松戸向陽
ものづくり	企業等と連携した実習を通して、工業系の企業への就職を目指す	姉崎
工業基礎		天羽
医療	体験的な学習を通して、看護師や理学療法士となる意欲を醸成	成田北
医療・福祉		長狭

※ 設置予定も含む



## 7 今後の取組みの方向性について

### (1) 連携を進める中で明らかになった課題

- ◆ 生活支援では連携が順調に進んだものの、キャリア形成支援及び学習支援については泉高校で予算が確保できない、対応する人員がいない等の理由で、当初、想定していたモデル事業の実施に至らなかった
- ◆ 卒業生の就職先での定着率、在学中の生活習慣・学力などのデータがなく、効果的な施策の検討が困難

### (2) 今後の取組みの方向性

- ◆ 平成30年度に実施したモデル事業は平成31年度も継続する
  - ✓ 市内企業見学バスツアー : 今年度実施分の検証と来年度の実施
  - ✓ 生活自立・仕事相談センターとの連携 : 生徒が抱える問題を早期に把握するための仕組みを検討

【参考】小学生の基礎学力定着に向けた平成31年度 of 取組み

- 長期休業時における集中的な学習支援
- 放課後における継続的な学習支援

- ◆ 県立高校と本市の連携のあり方について、引き続き泉高校及び県教育庁と協議を継続する
  - ✓ 泉高校 : 特に進路指導部とのコミュニケーションを緊密に行い、泉高校にとって必要な支援のあり方を検討
  - ✓ 県教育庁 : 本市が県立高校に対して支援できる範囲、県教育庁と本市の役割分担  
「県立学校改革推進プラン」終了後(平成34年以降)も見据えた県立高校と本市の連携のあり方
- ◆ データ(卒業生の就職先での定着率、在学中の生活習慣・学力など)取得の可能性について関係機関と協議する
  - ✓ 千葉労働局 : 市内事業所における学卒就職者の離職状況に関するデータ取得の可能性
  - ✓ 県教育庁 : 高校生の生活習慣、学力、進路に関するデータ取得の可能性

## 地域との協働による高等学校教育改革推進事業

2019年度予算額(案) 251百万円(新規)



新高等学校学習指導要領を踏まえ、Society5.0を地域から分厚く支える人材の育成に向けた教育改革を推進するため、「経済財政運営と改革の基本方針2018」や「まち・ひと・しごと創生基本方針2018」に基づき、高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等と協働してコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を推進することで、地域振興の核としての高等学校の機能強化を図る。

高校生と地域課題のマッチングを効果的に行うためのコンソーシアムを構築



**【プロフェッショナル型】**  
(専門学科中心10校程度)  
地域の産業界等との連携・協働による実践的な職業教育を推進し、地域に求められる人材を育成

～特徴・取組例～

- ・地域の特産物の付加価値を高め安定的な食料生産により地域の発展を担う人材を育成
- ・ものづくりに関する専門的な技術を身に付け、地場産業を支える人材を育成 など

**【地域魅力化型】**  
(普通科中心20校程度)  
地域課題の解決等を通じた学習を各教科・科目や学校設定科目等において体系的に実施するためのカリキュラムを構築し、地域ならではの新しい価値を創造する人材を育成

～特徴・取組例～

- ・地域との連携に係る教科横断的な単位を設定
- ・衰退しつつある地域の振興方策を地域との連携により研究・実践 など

**【グローバル型】**  
(学科共通20校程度)  
グローバルな視点を持ってコミュニティーを支える地域のリーダーを育成。

～特徴・取組例～

- ・グローバルな社会課題研究のカリキュラム研究開発
- ・海外研修等カリキュラムの中に体系的に位置づけ
- ・海外からの留学生を受け入れるなど外国人生徒と一緒に授業・探究活動を履修
- ・コミュニケーション能力を重視した外国語(複数外国語含む)の先進的な授業を実践 など